

元気の源

呉市立警固屋中学校

三年

争根

大翔

僕は祖母が作ってくれるおにぎり大好き

だ。祖母は、僕が学校からお腹を空かせて帰

ってくるといつもおいしいおにぎりを作って

くれている。部活でくださったに疲れて帰って

きておにぎりを頬張ると、お米の甘みが口い

っぱいに広がる。おにぎりの中に僕の大好物

のたらこが入っているとしても嬉しい気持ち

ちになる。祖母のおにぎりは、大きすぎて笑

ってしまう時もある。小さくて可愛らしい

時もある。

「おばあちゃん、おにぎり美味しかったよ」

と僕が言うといつも嬉しそうにほほ笑ん

で、

「またいつでも作ってあげるけんね」

と言ってくれる。いつも祖母のおにぎりの

おかげで、疲れが吹き飛んでいき、学校の後

に空手の稽古や塾での勉強を最後まで元気に

頑張り切る事ができる。

僕は、お米を食べるばかりで、作ることに
関してはあまり馴染みがなかったが、小学生
の時、学校の授業で田植えや稲刈りの体験を
したことがある。その時にお米作りについて
学習した。初めて田植えを体験して最も印象
的だったことは、腰をかかめて苗を植えるの
かとても大変だったことだ。また、兄元がぬ
かるみ滑りやすくなっていた。何度も転びそ
うになった。田植え体験の翌日、腰が痛すぎ
て歩くことも困難だった。稲刈りの体験では、
鎌を使って一つ一つ稲を刈った。稲を刈るの
は難しく、想像以上に力が必要で、とても時
間がかかった。田植えと稲刈りの体験を通し
て、お米が僕たちの食卓に届くまでには多く
の時間がかけられていて、そのうえ農家の方
が一生懸命大変な作業を行って下さっている
から毎日美味しいお米を食べる事ができるの
だということも学んだ。

近年、お米をはじめ農業に従事する人は減
少していて、農家の高齢化や担い手不足が課

題となっていて。さらに、外国から安価なお
 米が大量に輸入されたり、食生活の多様化に
 より米離れが加速したりするなど、主食がお
 米である日本にとって重要な問題に直面して
 いる。お米に関する問題に対して、僕たち消
 費者にできることは、お米を工夫してたくさ
 ん食べることであると考える。僕は毎日お米
 を食べる。味の濃いおかずを食べる時はより
 一層ご飯がすすむ。時間がないう時には、卵か
 けご飯やお茶漬けにするとかサラサラとご飯を
 食べることもできる。体調が悪く食欲がない
 時でも、おかげにするとか食べやすくなる。僕
 が最も好きなお米の食べ方はおにぎりだ。お
 にぎりは、食べる人の好みによって中に入れ
 る食材を選んだり、大きさを調整したりする
 ことかできる。また、忙しい時に手を汚さず
 手軽に腹ごしらえができて、サラッポに包
 めは簡単に持ち運びができる。このように、
 お米は工夫すれば様々な食べ方ができ、毎日
 飽きることもなく美味しく食べることもか
 できる。

僕はこれからも、お米を作ってくれ
る農家の
の方への感謝の気持ちをお忘れ
ずに、一粒一粒
大切に味わって食べたいと思
う。